第４回利賀ダム環境モニタリング委員会　議事要旨

開催年月日/会場	議事	出席委員（敬称略）	項目	議事要旨
令和７年３月３日 Web 会議（Teams）	①　第３回委員会の指摘事項と対応 ②　令和６年度モニタリングの実施状況 ③　令和７年度モニタリング計画（案）	阿部　學　（元新潟大学農学部教授、日本猛禽類研究機構理事長） 池本　良子（金沢大学名誉教授） 稲村　修　（元魚津水族館館長） 大井　徹　（石川県立大学 環境科学科特任教授（名誉教授）） 中田　政司（富山県中央植物園園長） 中村　浩二（金沢大学名誉教授） 南部　久男（元富山市科学博物館館長）	第３回委員会の指摘事項と対応	・指摘なし
			令和 6 年度モニタリングの実施状況	・騒音振動調査では、参考となる値が特例の最も高いものが用いられている。この基準を用いる必要があるのか。
				・騒音・振動調査で、夜間の騒音が 50dB を超えるところが 1 箇所ある。目安を超えているというわけではないが、静穏な地域にしては大きい。 ・地域への説明では、基準に比べて影響がないという表現ではなく、その人家には影響はない、とするなど表現を工夫するとよい。
				・大洞谷における出水時調査は、測定地点の設定がわかりにくい。急峻な河川で測定が難しいことは理解している。 ・降雨時には，採取した沢の上流でも SS が高くなると思われるので、沈砂池の直下で高い値がでるのは致し方ないが、本川への影響を把握する必要がある。
				・出水時調査の考え方は分かった。沈砂池の流入部と流出部に調査地点を設定すると、大変大きな SS 値がでて、対応が大変になる事例が多い。そこを含めて検討されるとよい。
				・ダムが完成すると、ダムの下流側は水が流れなくなるのではないか。両生類のヒキガエル類はダム下流が生息地であり、繁殖期に水がなくなるということになるのではないか。 ・一時的にでも、川が枯れると水生生物が死滅してしまい、影響が大きい。下流の水量が維持されるようにしていただきたい。 ・河川の実際の状況がわからない。ダム下流の水量を把握することはできるのか。
				・ダム供用後には、いわゆる瀬切れという状態にはならないように配慮するという理解でよいか。
				・委員になってから現地を確認していない。現地を見ないとわからないこともあるため、現地を確認させてほしい。
				・最近の現場の様子を確認したいので、現地視察等を検討してほしい。
				・令和 2 年度以降、猛禽類の繁殖実態はどうなっているのか。
				・クマタカに対し、様々な角度から対応されていることが分かった。
				・猛禽類調査について、事業による影響が詳細に検討されていることがわかり、よかった。
				・今回紹介いただいた猛禽類調査、解析手法は全国に先駆けた事例なのか。
			令和 7 年度モニタリング計画（案）	・ダムが完成したら、河川には影響は出る。水質、水温のほかに季節の変化も変わると想定される。環境の変化を想定し、それに見合った調査を計画してほしい。 ・ダム湖の存在は、外来種の呼び水になりかねない。完全に防ぐことは難しいが、想定されることに対しての対策を、今すぐではないが今後、検討いただきたい。
				・富山県のレッドリストの改訂を受けて、植物、昆虫類などは指定される種が増加している。それらには、どう対応していくのか。
				・富山県のレッドリストの改訂を受けて、新しく掲載されることになった重要種の生息範囲が工事範囲と重複しないか等を調べる必要があるのではないか。 ・昆虫類は種数が多いため、調査の際には重要種に指定されている種以外の種にもできるだけ注意すべきである。
				・富山県のレッドリストの改訂を受けて、事務局としては過年度の調査における重要な種の確認状況を改めて精査するとのことで安心している。精査した結果をモニタリング調査に反映してほしい。
				・猛禽類のクマタカは対応が進んでいるが、サシバについても同様に対応が必要と考える。

以上